

実力行使を背景に最後の最後まで闘おう

○ 11.15 区長会座り込み要請行動に125名が参加



2016 賃金確定闘争は最終局面を迎えています。この間、2度の団体交渉、3回の専門委員会交渉で我われの切実な要求や現場の実態を訴えてきましたが、区長会は一切応えようとはせず、同様の答弁を繰り返すばかりです。区長会は17日（木）に最終団交をもちたいとしていますが、業務職給料表も提示せず、我われの要求に対し何一つ具体的な回答を示さないまま、妥結だけを迫る区長会の姿勢は不誠実と言わざるを得ません。我われは18日（金）始業時から1時間の実力行使を配置しています。納得のいく解決を勝ち取るまで、組合員の総力を結集して最後の最後まで闘い抜きましょう。

我われはこの間、良質な公共サービスとしての清掃事業を区民との共同で作ることを方針とし、自治研活動として区民や区議会議員の皆様との対話集会などにも取り組み区民の声をしっかりと受け止め清掃事業の発展に向け取り組んで来ました。しかし、



いまだに約26%の職員が切替調整号数を保有し、昇給抑制の状態に留め置かれています。それらの職員は、職場の中でまさに中心的な役割を担っている40歳台から50歳台の職員がほとんどです。そもそも、区長会は「水準の見直しに至った考え方」として国公のラスパイレス指数を根拠としていますが、国公において官民比較が既に成り立っていないこと、職員数の比率や職種についても比較対象として成り立たないことを再度主張してきました。

あわせて、勧告から一ヶ月が経過した現時点でも、業務職給料表は提示されていません。労働条件の根幹とも言える給料表も提示されず、職員は大きな不安を抱えています。早急に業務職給料表を提示するように求めました。



区長会会長からは、これまでの交渉から前進した回答はありませんでした。これまでと同様に「国、他団体の動向を注視していく」「現時点における検討状況は非常に厳しい」との考え方を繰り返し、あわせて引上げ改定が勧告さ

れていない、都の情勢を引き合いに出して厳しい状況を殊更に強調しています。

区長会の理不尽な対応に屈せず、組合員が納得できる給与水準、人事制度を全組合員の団結で勝ち取りましょう。